

看護の現場より

看護学生みなさんに、私たちが日々看護を実践している現場での奮闘ぶりや、看護に対する熱い思いをシリーズで紹介します。

こんにちは！共立病院、 認知症グループです

共立病院 病棟看護師
竹内 由紀子さん



■ 認知症グループの活動

当院認知症グループは、認知症の権威でもある西村院長のもと認知症認定看護師を筆頭に各部署からメンバーを選出して構成されています。

認知症とは？様々な障害が原因となり記憶や認知機能が低下し日常生活に支障をきたす症状のことを言います。身体的機能の低下から始まり、当たり前のように出来ていた食事が摂れない嚥下障害、よく笑い話し好きな方の表情が乏しくなり言葉が出なくなる失語、鬱症状、自分の家族の顔が思い出せない、現在の場所が分からない、現状が受け入れられない、こういった症状は、治療が進まず回復の遅れにつながります。

そこで認知症グループとしては、こういった患者様に対し、早期介入し円滑に治療を進められるようグループ内でカンファレンスを重ね、患者様が安全かつ穏やかな入院生活が送れ、患者様の日常に近づけるようケアを考え各部署に発信していきます。



まずは、患者様の心身的苦痛を探り、ご家族に患者様の習慣や普段の生活についての情報収集をし安心出来る環境を創ります。その上で、認知症症状の悪化を和らげるため、現在の問題点をあげていきます。例えば、夜間不眠に悩まされている患者様には、質のよい睡眠のリズムを作れるよう日中の覚醒を促し、すっきりとした朝の覚醒を作ること。現在内服中の薬剤の調整を薬剤師や医師へ相談すること。

具体的には、規則正しい生活リズムを整える目的で、朝カーテンを開け日光浴、洗面所へ行きます。そうすることで、ベッド上で歯磨きやうがいを促しても飲み込んでしまう方が洗面所へ行くと洗面・歯磨き・うがいまでが自力で行えるようになります。また、ホットタオルの提供により朝食時の覚醒がよくなり誤嚥の予防につながります。

このように、入院生活でも当たり前の日常を取り戻すことで、患者様が安心して治療を受けられることを目的に活動しています。





■ 多職種との協働

すべてのチームケアの集結により、認知症症状の軽減に務めています。チームで連携することで、治療・看護・介助・機能向上・維持によりよい成果が期待できます。

チームの連携

OSTからは口腔ケア、嚥下評価や歯科の回診、義歯調整→食事が摂れる事、栄養状態改善。

NSTからは栄養状態管理、褥瘡治療ケア→創部治癒、疼痛緩和、二次感染予防。

CSTからは排泄の管理、排尿便障害、飲水管理→自然な排泄。

認知症グループは、入院中の患者様に季節を感じていただくためにイベントを企画します。春にはお花見、夏には夏祭り、冬にはクリスマス会を多職種協働で、病院をあげて行っています。最近では、4月に当院ペランダ広場で「桜の下でお花見会」を開催し、お花見団子や生菓子とお抹茶を楽しみました。入院生活から少し離れ、桜の下で食べる抹茶やお団子は高評価で、患者様から喜びの声も寄せられました。言葉こそ出ない患

者様や絶食中の患者様、寝たきりの患者様もリクライニング車椅子をレンタルし桜を観覧、院内全部署の協力と連携により実現しました。天候は曇っており桜も満開とは言えませんでした。患者様の笑顔と笑い声が桜を満開にし大盛況でした。

お花見が終わった途端、みんな次のイベントの催しを考え出します。夏祭りが一番大きいのでみんな患者様の笑顔見たさに今からワクワクです。

すべての人は確実に老いに向かって歩いていきます。もちろん私もそうです。近年高齢化社会の進行において、認知症は、高齢者の疾患とともについて回ることとは間違いなく、特効薬開発まではまだまだ遠い未来だと思えます。

忘れる苦しさ、忘れられる寂しさの中でも、四季の移り変わり、時間がゆっくり流れていること、生きていること、一日でも長く穏やかに過ごせるように美味しくご飯が食べられるように、笑顔でいられますように。私は願わずにはられません。

